

特集 地域医療

# 健康に安心して暮らせるまちへ

病気にかからず、ずっと健康でいたいというのは、誰もが抱く願い。とはいえ、気を付けていてもなかなかそうはいかないもの。体調不良などいざというときに頼りになるのが、近くの診療所や病院などの医療機関だ。

この春、長年地域に密着してきた市内の病院で医療体制が強化された。市民の医療の窓口となる診療所と病院の連携とともに、市民の健康を支える秦野の地域医療の今とこれからを紹介する。

問い合わせ 健康づくり課 ☎(82)9603

## 新病棟に膨らむ期待

個人のクリニックから入院治療に対応できる病院まで、秦野市内にある医療機関は、91件。その中でも、公的医療機関として地域医療の中核を担うのが、秦野赤十字病院と神奈川病院だ。

今年3月に新病棟が完成した神奈川病院の前身は、軍の結核療養病院。戦後、結核患者が減少したことで、昭和40年代に一般診療を開始した。それから約50年が経過し、建物が古く手狭という課題があった。今回の新病棟では、一般病棟のほか、手術室やリハビリテーション室なども一新されたことで、「地域の皆さんに、良質な医療を提供できる」と、橋詰院長は笑顔を見せる。

「地域医療支援病院」として県から承認を受けている同病院は、救急患者の受け入れに加え、医療関係者向けの症例検討会や市民公開講座を開催するなど、地域に根差した活動も積極的に行っている。同じ公的医療機関の秦野赤十字病院とも連携する中で、橋詰院長は「お互い異なる得意分野を持っているのは、地域医療の強み」と説明する。専門医の派遣などで、昨年それぞれ連携を密にしている。

## 医師増強と秦野の未来

秦野赤十字病院では、4月から小児科や脳神経外科、耳鼻咽喉科など8診療科で常勤医師が増員され、診療体制の拡充が図られた。特に小児科は、常勤医師が2人増え3人体制となったこと、平成29年4月から休止していた入院患者の受け入れと救急医療の再開が可能となった。現在、入院できるのは小学生以上だが、年度内には幼児も可能となる予定だ。今の小児科の状況を「まだまだ成長の途上」と

秦野赤十字病院耳鼻咽喉科の三上公志部長。患者の不安を取ることを心掛けながら診療に当たる。「困っていることがあればぜひ話してください」と優しい笑顔で話す。常勤医師2人体制になった耳鼻咽喉科では、甲状腺や耳下腺など首周りの手術や細胞の検査など、治療の幅が大きく広がった



3月から運用を開始した神奈川病院の新病棟1。手術室2のほか、透析室やリハビリテーション室、栄養管理室も新しくなった。免震構造で、大地震などの災害時にも対応できる

表現するのは、山田部長。ゆくゆくは新生児の入院の受け入れも目指すが、それには経験を積んだ看護師の増強が必要だからだ。目下の目標を、現在火曜日の夜だけとなっている当直の増加と話す山田部長は、「小児科が活躍する病院にしていきたい」と力強く語る。小児医療体制の充実には、分娩業務再開への大きな一歩と期待される。

一方で、「敷居の低い医療を目指している」と話すのは、脳神経外科の廣田部長。「心配なら迷わず受診を」と呼び掛ける。「重度な人には高度な医療を、軽度な人には適切な診断と助言で安心を提供します」と頼もしい笑顔で答えてくれた。

廣田部長が加わり、2人体制になった脳神経外科。大きく変わったのは、これまでできなかった手術や体への負担が少ないカテーテルなど、幅広い治療が行えるようになったことだ。分単位の迅速な処置が求められる脳の病気。早期治療は、後遺症の軽減や抑制にもつながる。救急搬送にかかる時間が短ければ、それだけ多くの命を救えるということだ。

## つながる医療と医療

こうした2病院の充実・強化を患者とは別の立場で歓迎するのは、秦野伊勢原医師会の関野高弘会長だ。地域

の診療所は、病院との橋渡しを担う存在。自身も小児科・内科医である関野会長は、「秦野赤十字病院の小児科や耳鼻咽喉科の人員が強化され、紹介しやすくなった。呼吸器であれば専門医がいる神奈川病院へ、というように、安心して患者さんを紹介できる」と話す。高度な検査や治療が必要になったとき、開業医が専門医への紹介状を出す。市内の医療体制が充実することは、その選択肢も増えるということだ。容体が安定した患者を診療所へ紹介する「逆紹介」や、CTやMRIといった大型医療機器の検査画像を診療所に提供するなど、互いの機能と役割を地域の中でフル活用する協力体制が築かれている。開業医は、生活の近くにいる身近な存在。「相談窓口と想ってもえられれば、敷居なんてありませんから」と市民へメッセージを送る。

「気軽に受診をしてほしい」。今回話を聞いたドクターたちは皆、その口をそろえる。共通するのは、病気という不安を取り除き、健康という安心を提供したいという思い。そこに、病院の大きさや診療科の違いはない。「何か」が起る前に、彼らを訪ねてほしい。真に頼りになる心強いドクターたちが、このまちにはいるのだから。

※設備や診療機能について一定の要件を満たし、都道府県知事から承認を受けた、地域医療の中核となる病院

## かかりつけ医&健(検)診のすすめ



秦野伊勢原医師会 関野高弘会長

日頃から、信頼し気軽に相談できるかかりつけ医を持つことが何より大切です。普段の健康状態や病歴を知っている医師からの紹介は、病院でのスムーズな治療につながるんです。医者にかかる機会がない若い方も多いかもしれませんが、市が実施しているがん検診や健康診査をきっかけにしてみてください。施設検診は個別の医療機関で受診するので、そこで自分に合ったかかりつけ医を見つけることができますよ。

今は元気に過ごしているから、まだ検査は必要ないと考えている方にも、ぜひ受診をお勧めします。健康なときの体を診てもらい、良いときのデータを記録しておくことは、体調が悪いときの比較として非常に有効です。

コロナ禍の今は、発熱があるとかかりつけ医で受診ができないこともあると思います。家で我慢せず、発熱診療に対応した医療機関(※)へ行ってください。発熱などの症状がないのに、診療所などに行くことでうつってしまふのではと心配し受診を控えることは、病気の発見を遅らせることにつながります。不調を感じたら、遠慮なく、かかりつけ医の扉をたたいてください。

※県新型コロナウイルス感染症専用ダイヤル ☎0570(056)774で案内

7面に健診・がん検診のお知らせを掲載